



Kekkaku

結核

▼ 読みたい項目をクリックしてください

Vol. 98 No.6 September-October 2023

- 原 著** 195……[器質化肺炎としてのステロイド投与後に肺結核と診断された9例の検討](#)
■尾下豪人他
- 症例報告** 201……[外国籍若年女性の乳腺結核の1例](#) ■網本久敬他
- 総 説** 207……[肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療：現状と課題](#) ■山田勝雄他

第98回学術講演会教育講演

- 短 報** 215……[高齢者結核～課題と対策を考察する](#) ■小宮幸作
- 219……[抗酸菌症の外科治療 — 肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療 Up To Date](#)
■山田勝雄

- 会 告** ICD 認定資格の申請手続きについて

器質化肺炎としてのステロイド投与後に肺結核と診断された9例の検討

尾下 豪人 緒方 美里 井上亜沙美 佐野 由佳
吉岡 宏治 池上 靖彦 山岡 直樹

要旨：〔目的〕肺結核と器質化肺炎の鑑別の重要性や注意点を明らかにする。〔方法〕単施設の後方視的症例集積研究。当院で入院加療した肺結核患者のうち、肺結核診断前に特発性または感染後の器質化肺炎としてステロイド投与を受けた症例を検討した。〔結果〕年齢中央値80歳代の男性患者9例を対象とした。肺結核診断時に病変を広範囲に認める患者が多く、9例中8例が喀痰抗酸菌塗抹陽性だった。9例中4例が死亡退院した。肺結核診断までのステロイド投与日数の中央値は48日（範囲14～310日）だった。ステロイド投与前にインターフェロンガンマ放出試験（IGRA）を受けた患者は9例中3例だった。4例は気管支鏡検査が施行されたが、2例では気管支洗浄液中の結核菌群PCRが偽陰性を示し、培養で肺結核と判明した。〔結論〕器質化肺炎を疑ってステロイドを投与する場合、気管支鏡やIGRAなどで慎重に肺結核を鑑別する必要がある。また、下気道検体を用いた結核菌群PCRが陰性でも、結核を完全に否定することはできないため、注意深い観察が必要である。

キーワード：肺結核、器質化肺炎、ステロイド、気管支鏡検査、PCR法

外国籍若年女性の乳腺結核の1例

¹網本 久敬 ²多山 葵 ¹瀧口 純司 ¹藤井 宏
¹富岡 洋海

要旨：症例は既往歴・家族歴に結核罹患のない28歳，ベトナム人女性。出産，授乳歴あり。X-1年8月頃から左乳房痛を自覚し，複数回の切開排膿を経て抗酸菌塗抹陽性，TB-PCR陽性となり乳腺結核と診断された。乳腺エコー検査では内部不均一な低エコー域を認め，乳房造影MRI検査ではT2強調像で高信号，T1強調像で低信号の嚢胞状病変で，辺縁がリング状に強く造影され膿瘍の所見であった。肺結核の所見は認めなかった。INH・RFP・EB・PZAの4剤で2カ月治療後，INH・RFPの2剤で4カ月治療し，その後再燃は認めていない。乳腺結核は本邦では稀な疾患であり，診断に苦慮することも多く，本患者でも複数回の切開排膿を要した。また，本患者の結核菌の遺伝子型をVNTR法により評価したところ，日本国内の感染よりも，母国もしくは外国人コミュニティでの感染が示唆された。2011年以降に報告された本邦乳腺結核の集計においても外国籍女性症例が散見され，本邦における外国籍結核患者の増加の観点からも重要な症例と思われ，報告する。

キーワード：乳腺結核，結核性乳腺炎，難治性乳腺膿瘍，外国人結核，VNTR

肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療：現状と課題

¹山田 勝雄 ²林 悠太 ²中川 拓 ²小川 賢二

要旨：感染症である肺非結核性抗酸菌症（肺NTM症）に対する治療は化学療法が基本であり，クラリスロマイシン（アジスロマイシン），リファンピシン，エタンプトールの3剤が標準治療薬とされ，必要に応じてアミノグリコシドを加えるという多剤併用療法が推奨されている。しかし，化学療法に抵抗性の症例も少なくなく，病状のコントロールを目的とした外科治療が必要となる症例もある。これまでも肺NTM症に対する外科治療に関しては様々な報告がなされており，集学的治療の一環としての外科治療の有用性は明らかになったと考えられるが，手術適応や切除範囲の選択，手術前・後の化学療法の期間等，解決されていない問題もある。一方，感染症疾患の特徴として，病変が一葉にとどまらず複数葉に拡散し拡大切除が必要となる症例もあるが，低侵襲の手術（胸腔鏡下手術）で施行できる症例も少なくない。今後，肺NTM症に対する外科治療の適応基準を明確かつ簡略化して周知するとともに，手術適応があると考えられる症例には病変が拡がる前に外科治療の介入が重要である。

キーワード：肺非結核性抗酸菌症，肺NTM症，肺MAC症，外科治療，手術

第98回学術講演会教育講演

高齢者結核～課題と対策を考察する

小宮 幸作

キーワード：高齢者，結核，診断，治療

第98回学術講演会教育講演

抗酸菌症の外科治療

— 肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療 Up To Date —

山田 勝雄

要旨：結核が化学療法にて治るようになった現在，抗酸菌症に対する外科治療の対象は肺非結核性抗酸菌症がほとんどを占める。病状のコントロールを目的とした肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療の有用性は，これまでの様々な報告からも明確であると考えられるが，手術適応の問題をはじめ，切除範囲の決定や術式の選択，手術前後の化学療法のレジメンと投薬期間等，いまだ議論の定まっていない問題もある。今回，われわれが現状行っている肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療のコンセプトおよび課題としている問題について考察する。

キーワード：抗酸菌症，肺非結核性抗酸菌症，肺NTM症，肺MAC症，外科治療，手術